

資料

大阪府内の女子大生親子世代間における食事マナーと
社会マナーの現状と意識

安田直子, 渡辺豊子*, 藤本千鶴*, 竹村利華**, 高木聡子**

(千里金蘭大学人間社会学部, *千里金蘭大学生生活科学部, **千里金蘭大学短期大学部)

原稿受付平成 19 年 8 月 20 日; 原稿受理平成 20 年 3 月 7 日

Differences in Table Manners and Social Manners between Students of
Women's Universities and Their Parents in Osaka PrefectureNaoko YASUDA, Toyoko WATANABE,* Chizuru FUJIMOTO,* Rika TAKEMURA**
and Satoko TAKAGI***Faculty of Human Society, Senri Kinran University, Suita, Osaka 565-0873***Faculty of Human Life Sciences, Senri Kinran University, Suita, Osaka 565-0873****Junior Department of Senri Kinran University, Suita, Osaka 565-0873*

More people now tend to eat at restaurants and to eat ready-made dishes rather than home-made dishes at home. It seems that the table manners and social manners of the young generation in public on trains, etc. are different from those of their parents. A questionnaire survey was therefore conducted to discover the differences in table manners and social manners, and the relationship between the two, between the young generation and their parents. The questionnaire involved 16 questions, half of which were related to table manners, and the other half, to social manners. Students of women's universities and their parents were randomly selected for the survey. More differences were found in table manners, the table manners of the young generation not being as good as those of their parents. The social manners and perception of manners of the young generation were quite different from those of their parents. The survey results showed interaction between table manners and social manners.

(Received August 20, 2007; Accepted in revised form March 7, 2008)

Keywords: table manners 食事マナー, social manners 社会マナー, manners マナー, sense of manner マナー意識, questionnaire アンケート.

1. 緒言

マナーの語源は「mani (手) で扱う方法」(ジーニアス英和辞典)で, 身体の所作, 行動を指す言葉といえる. またマナーとは「所属集団の文化がより望ましいとする行動様式, 行動型であり, かつその中に他者への敬意の念などが込められる社会的関係をより円滑化する習慣」(現代学校教育大辞典)と述べられる. 人間のグローバル的思考と社会活動が展開されるといわれる 21 世紀では多様な個性文化, 思考法が併存し, 従ってその多様性が尊重されることが前提となる.

多様性尊重には他者への尊重が基盤となるが, 他者と共有している公共の場について矢野らは公共空間, 公共的世界, 「あいだ」の世界はマナーによって構成さ

れ, マナーもまた「あいだ」の世界によって生き生きとした実在性を確保できるとし, 合理性や効率性への要請は「あいだ」の世界を破壊してきたと述べている¹⁾.

食事は家庭, 社会の公共空間で展開され人との関わり場として身近で, 毎日 3 回繰り返し一生続くことから他のマナーよりも直に人格に反映するマナーとして必然であり色濃い要素を持つと思われる. しかし近年, 社会状況変化の影響を受け孤食²⁾など食卓の場は公共空間ではない様相も呈し, また食の社会化が進み, 逆に家族でない他者との公共空間での食の場が広がりマナーの必要性は増しているともいえる.

一方で電車内など, より公共性のある場での若者のマナー³⁾に従来とは異なる状況も見受けられ, 最近

表 1. マナーに関する質問項目

食事マナー	社会マナー
周囲と食べる速さをあわす (食べる速さ)	近所の人にあいさつをする (近所に挨拶)
食事中にふさわしくない話をする (ふさわしくない話)	電車内で他人に席を譲る (席を譲る)
1つの食べ物を分けずに回し食べる 例, 1つのラーメン丼を分けずに食べる (回し食べ)	家に帰ったら手を洗う (手を洗う)
嫌いなものを食べ残すことがある (食べ残す)	駅などの公共の場で地面に座り込む (地べた座り)
ひじを付いて食べることがある (ひじをつく)	道やプラットホームに空缶・紙屑を捨てる (紙くず捨て)
食事中に口に物を入れたまま話す (口に物を入れ話す)	日常の電車内でパンや菓子などを食べる (電車で菓子)
いただきます/ごちそうさまを言う (いただきます)	電車内で携帯電話をかける (電車で携帯)
テレビを見ながら食べる (テレビを見て)	電車内で化粧をし, ブラシで頭髮を整える (電車で化粧)

下線のある項目はよいマナーと認識されるマナー項目, 下線のない項目はよくないマナーと認識されるマナー項目。()内は文章中の一部に用いた省略表現。

話題性にも事欠かない様相がある。マナーと親子の関連性について食生活に関する世論調査(NHK)では今の若い人が結婚して子どもを持ったときに食事に関するしつけやマナーに関し注意することが少なくなるとの予想が見られる⁴⁾。また今までに現代若者における食事マナーの行動や意識の検討は見受けられる⁵⁾⁶⁾が, 社会マナーとの関わりを見たものは見当たらない。本報では食事マナーを検討するにあたり, 食事以外のより公共的な意味合いを持つマナー, 即ち最近よく目にして変わってきたと感じられる電車内でのマナーなどを社会マナーととらえ, 対比してみることで, 身近で普段目にする日常的なマナーがどのような意識・対応となってきたのか現状を分析し, 親子世代間のマナーの違いを知り, 食事マナーの動向, 関連性を考察し今後の食教育を行う上での手立てとしたい。

2. 方 法

(1) 調査方法・実施時期・対象者

自記入, 留め置きによる質問紙調査法を用い, 調査は2003年6月に行った。

調査対象者は子世代として大阪府内の女子大学生(1校, 86名)および短期大学生(3校, 455名)とその親世代, 各541名, 計1,082名(回収率親77.1%,

子77.8%)とした。有効回答数は親世代417名, 子世代421名であった。調査対象者の性別は親世代, 男性5.0%, 女性95.0%, 子世代はすべて女性。年齢構成は子世代, 18-19歳90.5%, 20歳9.5%(短大生81.2%, 大学生は1年生のみで18.8%), その親世代, 38-44歳21.5%, 45-49歳49.6%, 50-54歳24.0%, 55歳以上4.8%であった。集計には下宿の学生18名(4.3%)も含む。

(2) 調査内容

調査内容は食事マナーへ関連すると思われる基本的質問項目およびマナー内容質問項目とした。基本的質問項目は性別, 年齢, 祖父母との同居経験の有無, 子供時代のマナーに関する家族からの注意の有無を「よく注意された」「ときどき注意された」「あまり注意されない」の3カテゴリー, 性格特性として社交性・協調性・従順性自覚の有無を「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の3カテゴリー設定し, 食事状況を最近1週間の形態別(内食・外食・欠食)の食事回数, 家族・友人との夕食回数として回答を得た。マナー内容質問項目は日頃, 日常場面でよく目にする一般的なマナーで, 最近特に変化してきたと思われる食事マナーと社会的なマナーを多種想定した中から, それぞれ8項目を選び設定した(表1)。その際, 項目内容の偏

大阪府内の女子大生親子世代間における食事マナーと社会マナーの現状と意識

りを少なくするために、マナーに関し分析した奥田⁵⁾、花井⁶⁾の4分類(①他者への配慮②健康③美意識④倫理感)を参考に、想定した項目を4分類した後、分類ごとに2つ選定し8項目とした。各マナー項目に対する行動の頻度は段階尺度「よくする」「時々する」「あまりしない」「しない」の4カテゴリー、その行動をどう思うかの自分の意識は「よい」「よくない」「どちらともいえない」の3カテゴリー、他者がしているのを見てどう思うかという他者への意識は「気になる」「気にならない」の2カテゴリーを設定した。

(3) 調査結果の解析

集計解析にはSPSS(V11.5)を用い、クロス集計結果は親子間のカイ2乗検定、相関分析を行った。検定を行うにあたって、行動頻度について、「しない」という頻度の高かったマナーでは「よくする」のデータ数が、「よくする」の頻度の高かったマナーでは「しない」のデータ数が5未満の項目が見られたため「よくする・時々する」「あまりしない・しない」の2区分として表示、検定を行った。質問は、主として常識的に「よくない」と認識されるマナー項目であるが、「よい」と認識されるマナー項目(食事マナー2項目、社会マナー3項目)も入っており、それらは表中に下線を引いて示した。「よい」と認識されるマナー項目について、他者がしているのを見てどう思うかという他者への意識は質問の受け止め方に相違が見られたので記載から省いた。

3. 結果および考察

(1) マナー項目の行動と意識の親子間比較

食事マナー、社会マナー各8項目の行動、意識、他者への意識の親子間対比を表2に示す。マナー項目はいずれも子世代の行動を「する」率の昇順に並べ、他はそれに従い表示した。食事マナーについて『いただきます』のマナーは、親子間の行動に有意な差は見られなかったが、他の食事マナーはすべて子のほうに「よくない」と認識されるマナーを「する」「よい」と認識される下線のあるマナーについては「しない」が多く有意な差が認められた。あなたはその行動をどう思いますかという意識については「よくない」と認識されるマナーを「よくないと思う」「よいと認識されるマナーは「よいと思う」」が子のほうに低く、8項目中4項目で有意に低かった。それらのマナーを他者がするのを見てあなたはどう思いますかという質問においては「他者の行動は気にならない」は子に多く

なり、全ての項目で有意な差が見られた。社会マナーにおいても「よくない」と認識されるマナーを「する」「よい」と認識されるマナーは「しない」が子に多く、8項目の行動すべてに有意な差が認められた。それら社会マナーを「よくないと思う」は子で低く、「他者の行動は気にならない」は子に多く、各3項目の意識に有意な差が認められた。このことから食事マナー、社会マナーともに親世代のほうが全体にマナーがよく、行動において子世代は親世代と比較するとマナーのよくない者が多いといえる。また有意な差が認められる項目数は意識において行動の約1/2に減ることから意識より行動に親子間差が生じているともいえる。親世代が行動でマナーがよいのは食物が豊富な時代とはいえ親は食べ物への関わり度も長く、従前からの食べ物大切にという教えや気持ちの反映があるからとも考える。親子とも、よくないと認識されるマナーを「よいと思う」「よいと認識されるマナーは「よくないと思う」」は低かった(1~7%)が、「どちらともいえないと思う」の占める割合が多くなるのは食事マナーの『回し食べ』『食べる速さ』『テレビを見て』の3項目、社会マナーでは食事マナーに比べると少ないが子には多く『電車で菓子』『電車で化粧』の2項目であった。また「他者の行動は気にならない」は食事マナーの『回し食べ』『食べ残す』『テレビを見て』の3項目で多くなった。これらはよくないと認識されるマナーを「する」の多い項目でもあった。これらのことからマナー行動というのは意識的に「よくない」と思いつつ行動をしているわけではなく「どちらともいえない」程度の価値判断の中で実行され、また他者がその行動をしていることに対して「気にならない」、即ちまず容認する意識が伴って自分も実行するものと推察する。食事マナーの『ふさわしくない話』『ひじをつく』『回し食べ』『テレビを見て』、社会マナーの『地べた座り』『電車で菓子』『電車で化粧』は、行動・意識とも親子間で有意な差が認められた。これらは近年目にするようになった親世代は行動しない、子世代中心の行動項目ともいえる世代の違いが伺え、電車内の社会マナーには、他者の行動が気にならないし自分も他者の目を気にしないという他者への無関心さが見出される。マナー行動は対人行動であることが前提でなされるが、繁忙な現代都市様相の中では自分と関係のない電車内の他者は人とみなしえない、また人とみなさない合理性で他者への関心や積極性をなくし、程よい「あいだ」の世界の形成もなく、反って公共意識そ

表2. 食事マナー, 社会マナー項目の親子間比較

親 n=417 子 n=421

マナー	項目	世代	行動		意識		他者への意識	
			する	親子間 有意差	よくない	どちらとも いいない	親子間 有意差	他者の行動は 気にならない 有意差
食事 マナー	食事中にふさわしくない話をする	親子	23 (5.6) 75 (18.0)	***	368 (93.6)	22 (5.6)	***	51 (13.0) 110 (27.2)
	いただきます／ごちそうさまで言う	親子	(しない) 77 (18.7) (") 76 (18.2)		(よい) 341 (85.7) (") 361 (86.6)	29 (7.3)		
	ひじについて食べることがある	親子	16 (3.8) 108 (25.9)	***	375 (94.9)	6 (1.5)	***	26 (6.6) 196 (47.9)
	食事中に口に物を入れたまま話す	親子	119 (29.0) 175 (41.9)	***	323 (81.2)	68 (17.1)	***	82 (21.0) 135 (32.9)
	1つの食べ物を分けずに回し食べをする	親子	92 (22.7) 192 (47.4)	***	172 (44.4)	205 (53.0)	***	188 (49.1) 313 (80.1)
	嫌いなものを食べ残すことがある	親子	108 (26.6) 201 (48.3)	***	250 (62.7)	140 (35.1)	***	140 (36.0) 243 (59.9)
	周囲と食べる速さをあわす	親子	(しない) 195 (47.5) (") 268 (64.3)	***	(よい) 125 (31.9) (") 106 (26.2)	226 (57.7)		
	テレビを見ながら食べる	親子	348 (84.4) 385 (91.6)	**	144 (36.0)	234 (58.5)	**	298 (75.8) 387 (93.9)
社会 マナー	道やプラットホームに空缶、紙屑を捨てる	親子	3 (0.7) 20 (4.8)	***	384 (97.7)	2 (0.5)		9 (2.3) 32 (8.0)
	駅などの公共の場で地面に座り込む	親子	6 (1.4) 60 (14.5)	***	372 (94.9)	14 (3.6)	***	14 (3.6) 96 (23.9)
	近所の人にあいさつをする	親子	(しない) 10 (2.4) (") 63 (15.0)	***	(よい) 393 (97.3) (") 382 (92.3)	10 (2.5)		
	家に帰ったら手を洗う	親子	(") 38 (9.2) (") 69 (16.5)	***	(") 382 (92.3)	4 (1.0)		
	電車内で携帯電話をかける	親子	26 (6.3) 111 (26.5)	**	347 (88.1)	42 (10.7)		48 (12.3) 114 (28.4)
	日常の電車内でパンや菓子などを食べる	親子	3 (0.7) 110 (26.3)	***	355 (90.1)	30 (7.6)	***	37 (9.5) 159 (39.1)
	電車内で化粧し、ブラシで頭髪を整える	親子	4 (0.9) 124 (29.6)	***	292 (71.6)	100 (24.5)	***	30 (7.7) 172 (42.2)
	電車内で他人に席を譲る	親子	(しない) 149 (36.3) (") 259 (62.1)	***	(よい) 352 (87.3) (") 356 (85.8)	40 (9.9)		

単位:人(%) カイ2乗検定 **p<0.01 ***p<0.001

下線マナーは他のマナーと異なり、よいマナーと認識されるマナー項目であるので各々 行動(しない)、意識(よい)の値を記載 他者への意識は記載を省略

大阪府内の女子大生親子世代間における食事マナーと社会マナーの現状と意識

のものを乏しくして、子世代にマナーの低下となって現れてきているのではないかと考える。食事マナーの『いただきます』『口に物を入れ話す』『食べ残す』『食べる速さ』、社会マナーの『紙くず捨て』『近所に挨拶』『手を洗う』『席を譲る』の項目は親子間で有意差が認められず意識差が少ない。即ち現在、親子で価値意識にあまり変化なく、同程度の価値観をもつマナー項目と考えられる。これらは昔から食事の際によくいわれ戒められ、また従前からの公衆の心得としていわれてきた基本的生活態度のマナーと考える。しかし『いただきます』を除いてその行動には親子間に有意な差が認められる。

(2) 各マナー意識と行動の差異

マナー項目の散布図を図1、図2に示す。全体様相や相対的な各意識・行動間差異をみるため、行動を横軸に意識を縦軸に率を表し、親子の点を結んだ。食事マナーは社会マナーに比べるとバラツキが見られ、3、4象限にも散らばっていることから行動・意識ともに全体にバラツキが大きく、このバラツキは親世代にも少なからず認められ、子世代はさらに著しいと見ることが出来る。一方、社会マナーはほぼ1象限にあり、全体的に親子とも行動と意識のバランスがとれ、特に親世代は全8項目ともマナーの行動・意識が高いといえる。このことから食事マナーは社会マナーに比べ、変化と低下が認められるといえる。食事マナーでは4

象限にある『回し食べをする』は親世代では行動はおこさないが意識は低いといえる。『1つの食べ物を分けずに回し食べる』ことの是認は従前、個別盛り付けが普通であった食事形式が、洋風の食卓テーブル形式に変わり、次第に健康度、衛生面の向上をバックに大皿から取り分け和気あいあいと食事をする食習慣の広まりも背景の一つではと推察する。3象限に位置する食事マナーの『食べる速さ』『テレビを見て』は親子とも、行動も意識も低いマナーといえる。『周囲と食べる速さをあわす』ことには、食事形態として孤食の機会が少なからず増えている状況でマイペースな自由さを大事にする思いが広まり、変化への影響力となっていると推察する。『テレビを見ながら食べる』は親子で意識差はあるが行動差は少なく低く、世代を問わないマナーの変容が最も伺える。これはテレビの情報娯楽機能が発達し、忙しい生活の食卓場面に入り込み、今までの食事マナー、食卓機能に影響を及ぼしていると考えられる。テレビは会話のない食卓に話題を提供してくれるという是認の面もあるが、幼児にテレビで気を紛わせ食事をさせるなどを聞くと食事を落ち着いて味わうという食事本来のあり方からはよいこととは思えず、また一家団欒における会話などコミュニケーションの場としての食卓機能の大事さを再考する必要性を感じる。親子の違いの伺える『回し食べ』『テレビを見て』の項目に現代社会背景の影響を受けたマナーの

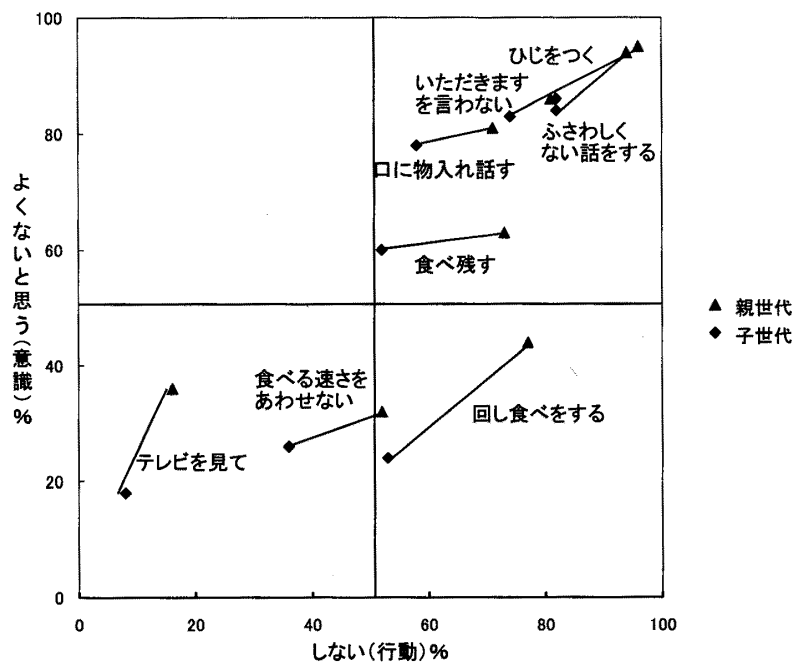


図1. 行動と自分の意識 (食事マナー)

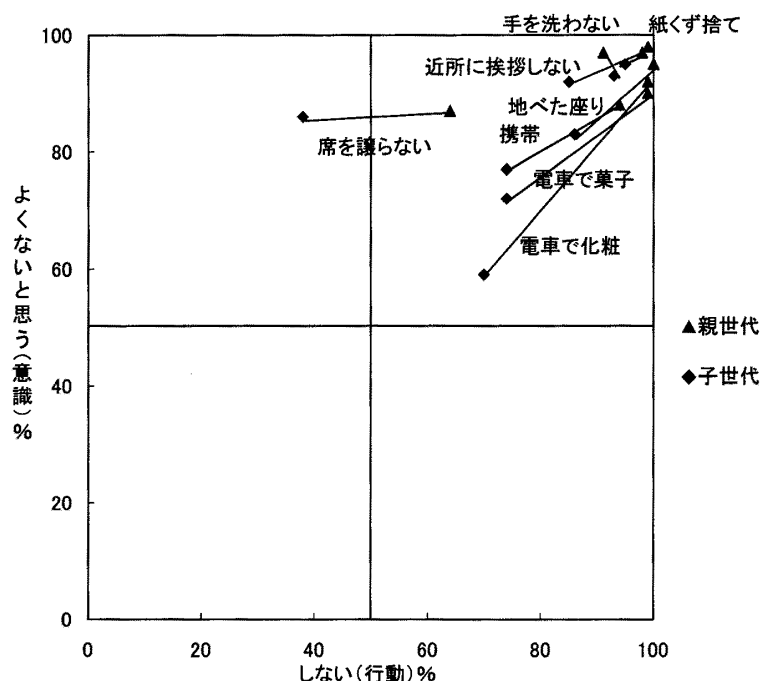


図2. 行動と自分の意識 (社会マナー)

推移・変化の様が読み取れる。また意識が低い3項目『回し食べ』『食べる速さ』『テレビを見て』の食事マナーは子世代で行動をする者も多いことから従来からのマナーに対する意識・行動がすでに変化してきたマナーと考える。昭和40～50年代の高度経済成長期において椅子に座ってテーブルでテレビを見つつ大皿等から取って食べる食べ方は親世代の成長過程で始まった食事形式と思われる。親世代がそれらへのマナー意識の育たぬままに親になり、次の子世代への躾や価値観へ影響を及ぼしている段階かと思われる。社会マナーの『席を譲る』マナーでは親子とも意識は高いけれども譲らない人が多く特に子に著しい。他者への関心度がある場合でも、よい行動をする場合の若者特有の他者へのはにかみが行動を抑制しているとも思われ、よいマナーをする社会的雰囲気醸成も望まれる。

(3) マナーと基本的質問項目との関連性

マナーと関連があると思われる基本的質問項目の祖父母との同居経験、性格特性、子供時代にマナーの注意をよくされたか、および最近の食事状況などと食事マナー・社会マナー項目の「する、しない」行動との関連性を見るため、カイ2乗検定した結果を表3、表4に示す。親世代の祖父母との同居経験は55.9% (幼児期44.0, 学童期38.0, 中学31.2, 高校26.1%) 子世代は41.6% (幼児期31.4, 学童期25.9, 中学22.1, 高校21.1%) であり、親世代の方に同居経験が

やや多いが、マナー行動との関連性は親世代では認められなかった。子世代で『ひじをつく』『地べた座り』『電車で携帯』『電車で化粧』『席を譲る』の計5項目と関連性のある傾向が見られた。対象者の性格特性として社交性があると思う自覚は親45.5%, 子41.9%, 協調性があるのは親77.6%, 子61.7%, 従順性があるのは親39.5%, 子36.8%の状況であったが、性格特性の中では協調性、従順性に比べ、社交性より関連性が認められ、親世代は『いただきます』『回し食べ』『食べ残す』『近所に挨拶』の4項目と、子世代は『回し食べ』『食べる速さ』2項目、『地べた座り』『席を譲る』以外の社会マナー6項目、計8項目と関連性のある傾向が見られた。個人の性格とマナーの関連性で、大坊が心理学的立場から化粧マナーを中心に検討しており、マナー行動は個人のパーソナリティ特性の中でおおむね社会的に積極的な外向性と関連が強いと述べている⁷⁾。この外向性は今回の社交性に対応するとも考える。子供時代家庭で食事マナーの注意を受けていたか否かは親世代でよく受けた36.4%, 時々52.5%, 子世代でよく受けた39.4%, 時々53.6%, 社会マナーは親世代でよく注意を受けた32.7%, 時々52.5%, 子世代でよく受けた30.4%, 時々59.8%で、親子世代間差は少なく、社会マナーよりも食事マナーのほうが若干よく注意を受けたと思っていたが、食事マナーへの注意と各マナーとの関連性では親子と

大阪府内の女子大生親子世代間における食事マナーと社会マナーの現状と意識

表3. マナーと基本的質問項目との関連性 (親世代)

親世代	祖父母と同居経験 n=224 ①	社交性 n=413 ① ②	性格特性 協調性		従順性		食事マナーへの注意		朝食を欠食 n=401 ③ ④	食事状況 夕食を家族と		友人と食べる n=408 ③ ④
			n=411 ① ②	n=408 161 24 ① ②	n=412 150 45 ① ②	n=410 134 60 ① ②	n=409 34 375 ③ ④					
食事マナー	食事中にふざけくしない 話をする	6.2 93.8	3.7 7.7 96.3 92.3	6.0 5.6 94.0 94.4	4.3 5.6 95.7 94.4	5.4 11.1 94.6 88.9	6.1 8.3 93.9 91.7	8.4 7.3 92.1 94.6	91.7 92.7	7.9 5.4 92.1 94.6	0.0 2.8 100 97.3	
	いただきます/ ごちそうさまを言う	81.9 18.1	82.4 69.6 17.6 30.4 **	81.6 72.2 18.4 27.8	82.6 79.2 17.4 20.8	82.4 77.8 17.6 22.2	84.1 73.3 15.9 26.7	70.2 80.2 29.8 19.8	85.6 100 14.4 0.0	70.2 80.2 29.8 19.8	74.1 100 25.9 0.0	
	ひじについて 食べる	3.1 96.9	4.3 2.5 95.7 97.5	3.8 5.6 96.2 94.4	3.1 4.2 96.9 95.8	2.7 2.2 97.3 97.8	1.5 1.7 98.5 98.3	17.9 3.2 82.1 96.9 ***	100 97.4	17.9 3.2 82.1 96.9 ***	7.3 50.0 92.6 50.0 **	
	食事中に口のもの を入れたまま話す	32.4 67.6	28.0 25.3 72.0 74.7	28.4 38.9 71.6 61.1	27.0 8.3 73.0 91.7 *	19.5 36.4 80.5 63.6	20.3 35.0 79.7 65.0 *	22.5 26.1 77.5 74.0	33.4 19.5 66.7 80.6	22.5 26.1 77.5 74.0	25.6 50.0 74.4 50.0	
	1つの食べ物を分けず に食べる	22.8 77.2	25.5 11.8 74.5 88.2 *	22.8 29.4 77.2 70.6	23.6 13.0 76.4 87.0	20.9 27.3 79.1 72.7	24.2 18.3 75.3 81.7	25.8 22.2 74.3 77.8	20.5 12.5 79.6 87.5	25.8 22.2 74.3 77.8	27.8 100 72.2 0.0 *	
	嫌いなものを 食べ残すことがある	25.8 74.2	26.0 19.8 74.0 80.2 **	25.8 41.2 74.2 58.8	30.4 25.0 69.6 75.0	27.7 28.9 72.3 71.1	26.5 30.0 73.5 70.0	37.1 27.4 63.0 72.7	39.4 50.0 60.6 50.0 *	37.1 27.4 63.0 72.7	19.0 0.0 81.1 100	
	周囲と食べる速さを あわせる	52.4 47.6	54.8 51.3 45.2 48.7	54.4 41.2 45.6 58.8	57.9 12.5 42.1 87.5 ***	55.4 53.3 44.6 46.7	57.1 41.7 42.9 56.3	56.1 53.2 43.9 46.8	58.1 50.0 41.9 50.0	56.1 53.2 43.9 46.8	54.0 100 46.0 0.0	
	テレビを見ながら 食べる	82.7 17.3	84.5 82.1 15.5 17.9	84.4 88.2 15.6 11.8	85.7 75.0 15.2 25.0	82.6 77.8 17.4 22.2	84.2 86.7 15.8 13.3	74.8 85.9 25.2 14.1	78.5 91.7 21.5 8.3	74.8 85.9 25.2 14.1	81.4 50.0 18.6 50.0	
	社会マナー											
	道やプラザ・ホームに 空缶・紙屑を捨てる	1.3 98.7	1.1 1.3 98.9 98.7	0.6 0.0 99.4 100	1.3 0.0 98.8 100	0.7 2.2 99.3 97.8	0.7 0.0 99.3 100	0.0 0.9 100 99.1	0.4 0.0 99.6 100	0.0 0.9 100 99.1	0.4 0.0 99.6 100	
駅などの公共の場 で地面に座りこむ	0.4 99.6	0.5 0.0 99.5 100	0.3 0.0 99.7 100	0.6 0.0 99.4 100	0.7 0.0 99.3 100	0.7 0.0 99.3 100	0.0 0.9 100 99.1	0.3 0.0 99.7 100	0.0 0.9 100 99.1	0.2 0.0 98.8 100		
近所の人に あいさつをする	98.2 1.8	96.8 69.6 3.2 30.4 **	97.5 94.4 2.5 5.6	96.9 91.7 3.1 8.3	95.3 100 4.7 0.0	94.8 100 5.2 0.0	93.3 97.2 6.7 2.8 *	94.6 91.6 5.4 8.4 *	93.3 97.2 6.7 2.8 *	93.3 100 6.7 0.0		
家に帰ったら 手を洗う	91.7 8.3	91.5 88.6 8.5 11.4	91.6 83.3 8.4 16.7	89.4 91.7 10.6 8.3	91.3 86.7 8.7 13.3	92.5 81.7 7.5 18.3 *	80.0 93.4 20.0 6.6 ***	91.2 83.4 8.8 16.6	80.0 93.4 20.0 6.6 ***	95.2 100 4.8 0.0		
電車内で 携帯電話をかける	4.4 95.6	6.4 3.8 93.6 96.2	6.0 0.0 94.0 100	5.6 4.2 94.4 95.8	5.3 9.1 94.7 90.9	5.2 6.8 94.8 93.2	5.6 6.8 94.4 93.2	3.0 12.5 97.0 87.5	5.6 6.8 94.4 93.2	3.2 0.0 96.8 100		
日常の電車内でパンや 菓子などを食べる	0.9 99.1	0.5 0.0 99.5 100	0.9 0.0 99.1 100	0.6 0.0 99.4 100	0.7 0.0 99.3 100	0.7 0.0 99.3 100	0.0 1.3 100 98.7	0.4 0.0 99.6 100	0.0 1.3 100 98.7	0.8 0.0 99.2 100		
電車内で化粧し、 ブラジで頭髪を整える	0.9 99.1	1.1 0.0 98.9 100	0.9 0.0 99.1 100	1.9 0.0 98.1 100	0.7 2.2 99.3 97.8	0.7 1.7 99.3 98.3	0.0 1.4 100 98.6	0.5 0.0 99.5 100	0.0 1.4 100 98.6	0.5 0.0 99.5 100		
電車内で他人に 座を譲る	69.9 30.1	64.5 62.0 35.5 38.0	64.5 44.4 35.5 55.6	64.0 54.2 36.0 45.8	67.6 61.4 32.4 38.6	69.9 53.3 30.1 46.7	57.6 64.7 42.4 35.3	63.8 83.4 36.2 16.6	57.6 64.7 42.4 35.3	70.5 50.0 29.5 50.0		

数値は% ①はい②いいえ③～2回/週④3回～/週

カイ乗検定 *P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

下線マナーはよいマナーと認識されるマナー項目

数値は% ①はい ②いいえ ③～2回/週 ④3回～/週 カイ2乗検定 *P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001 下線マナーはよいマナーと認識されるマナー項目

表 4. マナーと基本的質問項目との関連性 (子世代)

子世代	祖父母と同居経験 n=172 ①	社交性		性格特性 協調性		従順性		マナーへの注意 食事マナー		食事状況 朝食を欠食		友人と食べる	
		n=415 ① ②	n=413 ① ②	n=416 ① ②	n=416 ① ②	n=416 ① ②	n=416 ① ②	n=414 ① ②	n=414 ① ②	n=414 ③ ④	n=414 ③ ④	n=415 ③ ④	n=415 ③ ④
食事マナー													
食事中にふさわしくない/しない	19.7 ①	23.3 76.7	13.8 86.2	18.1 81.9	28.9 71.1	14.3 85.7	53.8 46.2	19.6 80.4	16.7 83.3	19.5 80.5	17.1 82.9	22.2 77.8	
いただきます/ごちそうさまを言う	83.7 16.3	63.2 36.8	62.4 37.6	84.3 15.7	81.1 18.9	82.4 17.6	84.6 15.4	87.7 12.3	77.4 22.6	84.9 15.1	72.5 27.5	88.9 11.1	
ひじをつけて食べる/することがある	33.1 66.9	24.6 75.4	21.6 78.4	34.1 65.8	21.4 78.6	38.5 61.5		22.6 77.4	22.6 77.4	19.8 80.2	36.6 63.4	25.8 74.2	25.0
食事中に口に物を入れたまま話す	43.1 56.9	40.2 59.8	42.2 57.8	37.8 62.2	50.0 50.0	39.6 60.4	46.2 53.8	42.6 57.4	35.5 64.5	42.1 57.9	43.9 56.1	44.4 55.6	45.7
1つの食べ物を分けずにする/しない	48.2 51.8	49.1 50.9	25.4 74.6	48.2 51.8	41.7 58.3	46.6 53.4	57.9 42.1	48.7 51.3	46.7 53.3	55.8 44.2	41.9 58.1	51.8 48.2	60.3
嫌いなものを食べ残すことがある	50.6 49.4	49.4 50.6	43.1 56.9	44.9 55.1	47.4 52.6	43.1 56.9	56.4 43.6	43.6 56.4	71.0 29.0	42.1 57.9	58.5 41.5	54.4 45.6	66.7
周囲と食べる速さをあわせる	36.4 63.6	89.1 10.9	80.6 19.4	42.7 57.3	13.2 86.8	46.8 53.2	15.4 84.6	37 63	29.0 71.0	36.5 63.5	26.8 73.2	33.4 66.6	25.0
テレビを見ながら食べる	90.2 9.8	92.0 8.0	90.9 9.1	92.9 7.1	89.5 10.5	93.5 6.5	87.2 12.8	90.2 9.8	93.5 6.5	87.3 12.7	100 0.0	91.9 8.1	97.2
社会マナー													
道やプラットホームに空箱 紙屑を捨てる	7.0 93.0	33.3 66.7	23.3 76.7	3.5 96.5	16.2 83.8	5.2 94.8	10.3 89.7	4.9 95.1	9.7 90.3	5.6 94.4	10.0 90.0	5.7 94.3	11.1
駅などの公共の場で地面に座りこむ	18.6 81.4	17.3 82.7	14.1 85.9	13.4 86.6	24.3 75.7	15.7 84.3	28.2 71.8	16.7 83.3	26.7 73.3	14.3 85.7	25.0 75.0	14.8 85.2	33.3
近所の人にあいさつをする	84.9 15.1	8.6 91.4	1.7 98.3	86.7 13.3	78.4 21.6	81.0 19.0	82.1 17.9	85.9 14.1	80.6 19.4	86.5 13.5	84.8 15.2	85.5 14.5	77.8
家に帰ったら手を洗う	82.0 18.0	149 27.0	155 19.0	84.3 15.7	70.3 29.7	82.4 17.6	71.8 28.2	87.1 12.9	74.2 25.8	84.9 15.1	72.5 27.5	84.0 16.0	61.1
電車内で携帯電話をかける	33.7 66.3	37.9 62.1	24.4 75.6	27.5 72.5	29.7 70.3	25.5 74.5	46.2 53.8	25.8 74.2	29.0 71.0	26.2 73.8	32.5 67.5	30.8 69.2	44.4
日常の電車内やベンチ、菓子などを食べる	26.7 73.3	34.1 65.9	21.7 78.3	27.2 72.8	29.7 70.3	27.5 72.5	41.0 59.0	24.5 75.5	22.6 77.4	23.8 76.2	32.5 67.5	25.7 74.3	44.4
電車内で化粧し、ブラッシュや髪を巻く	35.5 64.5	47.7 52.3	32.0 68.0	31.0 69.0	35.1 64.9	32.0 68.0	46.2 53.8	24.5 75.5	12.9 87.1	32.5 67.5	20.0 80.0	31.5 68.5	47.2
電車内で他人に席を譲る	44.8 55.2	17.3 82.7	10.9 89.1	38.8 61.2	32.4 67.6	35.9 64.1	53.8 46.2	44.4 55.6	29 71	46.8 53.2	22.5 77.5	38.4 61.6	38.9

数値は% ①はい ②いいえ ③～2回/週 ④3回/週 ***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05 カイ2乗検定 下線マナーはよいマナーと認識されるマナー項目

大阪府内の女子大生親子世代間における食事マナーと社会マナーの現状と意識

表5. 食事マナーと社会マナーの相関（行動頻度）

親 n=417 子 n=421

世代	食事マナー 社会マナー	食事中ふさわしくない話をする	いただきます ごちそうさま を言う	ひじを ついて食べる ことがある	食事中に 口の物を 入れたまま話す	1つのものを 分けずに回し 食べる	嫌いなものを 食べ残す ことがある	周囲と 食べる速さを あわす	テレビを 見ながら 食べる
親	道やプラットホームに空缶・紙屑を捨てる	*	0.10			* 0.10			
	駅などの公共の場で地面に座り込む						* 0.10		
	近所の人にあいさつをする		*** 0.18		* -0.10			*** 0.21	
	家に帰ったら手を洗う		* 0.11					* 0.11	
	電車で携帯電話をかける	**	0.14			** 0.12	** 0.13		** 0.15
	日常の電車でパンや菓子などを食べる	*	0.11			** 0.16			
子	電車で化粧し、ブラシで頭髪を整える			* -0.11					
	電車で他人に席を譲る	*	-0.09	*** 0.21					
	道やプラットホームに空缶・紙屑を捨てる	***	0.19	*** 0.16	* 0.11	* 0.12	*** 0.22		
	駅などの公共の場で地面に座り込む	***	0.26	** 0.13	*** 0.17		* 0.11		
	近所の人にあいさつをする	*	-0.09	* -0.09					
	家に帰ったら手を洗う		*** 0.17	** -0.15			* -0.10		
子	電車で携帯電話をかける	**	0.15	* 0.10		** 0.12	* 0.11		
	日常の電車でパンや菓子などを食べる	***	0.23	** 0.11	** 0.14	*** 0.20	* 0.09		
	電車で化粧し、ブラシで頭髪を整える			** 0.13		*** 0.17	** 0.13		
	電車で他人に席を譲る		*** 0.19					* 0.08	* -0.10
	ケンドールの相関係数	*P<0.05	**P<0.01	***P<0.001					
	下線マナーはよいマナーと認識されるマナー項目								

も関連性は認められず、社会マナーへの注意との関連性では親世代の『口に物入れ話す』、『手を洗う』、子世代の『テレビを見て』、『席を譲る』の各マナーそれぞれ1項目に関連性が見られた。食事状況では対象者の最近の1週間における朝食欠食は0回親91.6%、子65.0%であり、朝食欠食は親世代では『食べ残す』、『近所に挨拶』の2項目と、子世代は『地べた座り』『手を洗う』『電車で菓子』『電車で化粧』の社会マナー4項目と関連性が見られた。夕食は外食が0回親80.2%、子55.2%、欠食は0回親99.0%、子90.2%で、夕食を家族と食事した回数は親世代で7回68.9%、0回2.4%、子世代で7回27.2%、0回10.1%、夕食を友人と食べた回数は0回親91%、子53.6%と食事状況は親子世代間でやや異なっており、夕食を家族と食べる回数は親世代では『ひじをつく』『近所に挨拶』『手を洗う』3項目と、子世代は『いただきます』『回し食べ』『食べ残す』の食事マナー、『電車で携帯』『電車で化粧』『席を譲る』の社会マナー、各3項目計6項目と関連性が見られた。夕食を友人と食べる回数は親世代では『ひじをつく』『回し食べ』の2項目と、子世代では『回し食べ』『食べ残す』2項目、『紙くず捨て』『地べた座り』『手を洗う』『電車で携帯』『電車で化粧』の社会マナー5項目、計7項目と関連性のある傾向が見られた。親世代と比べると子世代にマナー項目との関連性が多く見られることから、子世代のマナー行動には個人特性や食事状況が少なからず

影響力を与えていることが示唆された。

(4) 食事マナーと社会マナーの関連性

食事マナーと社会マナー項目の相関を表5に示す。「よい」との認識度の高い食事マナーと「よい」との認識度の高い社会マナー、「よくない」との認識度の高い食事マナーと「よくない」との認識度の高い社会マナーで正の相関を示し、食事マナーのよくない子は社会マナーもよくない。これら食事マナーと社会マナーの関連性が認められ、「食事マナーはよい」が、「社会マナーはよくない」という子世代はいないことから、マナー教育を考える場合は食事マナーと社会マナーを区別することなく教育することでその効果も期待できると考える。佐藤らは家庭科教育の在り方における高校生の食生活での価値意識の調査で高校生は社会志向性価値意識に関して「食事マナーの心得」「他の人の気持ちになれること」「周囲との調和の重視」をあげた⁸⁾としているが、この高校生の重視する3項目はマナー行動やマナー教育に直に結びつく意識項目と思われる。また主体的行動の取れる生徒は食生活における価値意識が高く、社会・個人志向性価値意識の全ての項目に認識が高い⁹⁾と述べているが、食生活における価値意識の認識が高いほど主体的行動の取れる人間となりうると考えることが可能ならば食事への価値認識の啓蒙は大変意味があることとも思われる。今回の調査項目におけるマナー行動は、人目がより多いと思われる社会マナーに比べて、まだ家族内での機会の多い

食事マナーのほう意識、行動ともに変化し低下してきている。マナーは時代とともに変化もすると思われる。またマナーは学校教育や就職活動などの機会でも修得されると思われる。しかし日常の基本的なマナー修得には食事のあり方を含め、従前から行われてきたように身近に家庭内で毎日繰り返される食事・食卓の場を生かして親から子へと意識・行動を高める機会を持つことが大事と思われる。アンケート結果から考えるとマナー意識・行動を高める機会を今持ち続けているか、と次の世代ではさらに時代様相を反映してマナー意識が変化し、公共空間でのマナー行動が相対的に低下していくと懸念され、双方のマナー教育の重要性が認識される。今後はこれら意識、行動が変容している要因についても検討していきたい。

4. 要 約

食事マナーと社会マナーの現状とその意識の状況を把握し、食教育の一環としての今後のマナー教育の手立てとするために、食事マナー、社会マナーに関し各8マナー項目を選び女子大生とその親の世代に対しアンケート調査し、以下のような結果を得た。

1) 調査マナー項目の食事マナー、社会マナーともに親世代が子世代に比べ全体にマナーがよかった。

2) マナーの意識よりもマナーの行動において、より親子間の差が認められた。

3) 親子とも、よくないと認識されるマナーをする者には「よくないと思う」意識の者が減り、「どちらともいえないと思う」の意識の者が多くなった。

4) よくないと認識されるマナーをする者には「他者のその行動は気にならない」の意識が多くなり、マナー行動には他者の行動を容認する意識が伴うといえる。

5) 食事マナーの『1つの食べ物を分けずに回し食べをする』『ひじをついて食べる』『食事中にふざわしくない話をする』、社会マナーの『電車内で化粧をし、ブラシで頭髮を整える』『日常の電車内でパンや菓子などを食べる』『駅などの公共の場で地面に座り込む』は行動・意識ともに親子間に差が認められた。近年目にするようになったマナーが多く、親世代は行動しない、子世代中心の行動項目として見出せた。

6) 食事マナーの『いただきます/ごちそうさまを言う』『食事中に口に物を入れたまま話す』『嫌いなものを食べ残すことがある』『周囲と食べる速さをあわ

す』や社会マナーの『道やプラットホームに空缶・紙屑を捨てる』『近所の人にあいさつをする』『家に帰ったら手を洗う』『電車内で他人に席を譲る』は親子間の意識の差が少なかった。親子で現在、同じ程度の価値観のマナーといえ、これらは昔から食事の際によくいわれ、また従前からの公衆の心得的なものといえる。

7) 食事マナーの『1つの食べ物を分けずに回し食べをする』『周囲と食べる速さをあわさない』『テレビを見ながら食べる』は親子とも、意識が低いと認められた。特に子世代に行動をする者も多いことから意識・行動ともに変化しているマナーといえる。

8) 子世代のマナー行動は親世代と比べると、個人特性(祖父母との同居経験、性格)や食事状況(朝食を欠食、夕食を家族と食べる、友人と食べる)の影響が見られた。

9) 調査項目の食事マナーは社会マナーに比べて変化と低下が認められたことから、身近な毎日の食事、食卓での親子間でのマナー教育の必要性が認識された。

10) 食事マナーと社会マナー間に正の相関が認められた。「食事マナーはよい」が、「社会マナーはよくない」という子世代はいないことから、区別することなくマナー教育する必要性がある。

引 用 文 献

- 1) 矢野智詞, 越智康詞, 松田恵示, 古賀正義, 加野芳正: マナーに関する教育学的研究, 日本教育学会第62回大会報告, 教育学研究 **71** (1), 64-72 (2004)
- 2) 武田紀久子: 家庭における子供の孤食と食事マナーに関する研究, 東京都立短期大学研究紀要, 1号, 95-101 (1997)
- 3) 三上俊治, 吉井博明, 中村 功: 電子ネットワーク時代における情報通信マナーに関する調査研究報告書, マルチメディア振興センターS, 195 (1999)
- 4) 中瀬剛丸: 食事に関するしつけやマナーの伝承, 放送と調査, 日本放送出版協会, **56** (11), 50-57 (2006)
- 5) 奥田和子: 現代若者における食事マナーの意識と変容, 甲南女子大学研究紀要, **23**, 183-199 (1986)
- 6) 花井玲子: 現代若者に見られる食事マナーの意識, 宇部短期大学学術報告, **27**, 69-76 (1990)
- 7) 大坊郁夫: 社会的スキルとしての対人的なマナー行動, 化粧文化, **22**, 30-40 (1990)
- 8) 石山朋美, 佐藤文子: 食生活における社会・個人的自己実現を志向した価値意識(第1報) 高校生と研究者の実態から, 家教誌, **42** (3), 33-39 (1999)
- 9) 佐藤文子, 石山朋美: 食生活における社会・個人的自己実現を志向した価値意識(第2報) 高校生の主体的な生活との関連から, 家教誌, **42** (3), 41-46 (1999)